主　題：雅歌において描写されている、勝利を得る生活

標　語

雅歌は詩の形式での、キリストを追い求める者の生活の
すばらしい生き生きとした描写であり、
キリストの花嫁の用意を整えるための、
個別の信者とキリストとの愛の交わりの
進展していく経験を明らかにしています。
聖書が啓示しているのは、
神が人と成ってわたしたちに求愛したということ、
また今やわたしたちが彼に求愛して、
彼との個人的で、愛情に満ちた、私的で、霊的な関係を通して、
神聖になって彼を表現することを、
神が願っているということです

神は、自分自身の中で強い者を願いません。
勝利者と勘定される者は、
からだの原則の中で完全に主に依り頼んでおり、
寄る辺なき者のようにキリストに信頼する、より弱い者たちです。

わたしたちはわたしたちの愛する方の御声、
すなわち、彼の個人的で、特定の、直接的な語りかけを
日ごとに、個人的に聞く必要があります。
それによって、わたしたちは用意を整えて彼の栄光の花嫁となり、
それは、彼が再び来て、
わたしたちと結婚することができるためです――
「園の中に住む者よ.
わたしの仲間たちは、あなたの声に耳を傾けています.
わたしにそれを聞かせてください」――雅 8:13

「主が来られる時、信仰は事実となり、
祈りは置き換えられて賛美となります。
愛は影のない完全なものとなり、
わたしたちは罪のない領域で主に仕えます。
それは何という日でしょう！
主イエスよ、すぐに来てください！」
――ウオッチマン・ニー

©2026 Living Stream Ministry

メッセージ　1

雅歌の第一段階――引き寄せられキリストを追い求めて、満足を得る

聖書：雅 1:1―2:7．ヨハネ 14:21，23．21:15-17

Ⅰ．「歌の中の歌、これはソロモンの歌である」は、詩的な表現、言葉、語句における、キリストを愛する者の霊的な歴史の記述です。それは詩の形式での、キリストを追い求める者の生活のすばらしい生き生きとした描写であり、キリストの花嫁の用意を整えるための、個別の信者とキリストとの愛の交わりの進展していく経験を明らかにしています――雅 1:1．啓 19:7．参照、列王上 4:32：

A．雅歌は伝道の書と対照をなしています。伝道の書は、「日の下」でのすべての積極的な経験と消極的な経験が「空の空」であることを示しています――伝 1:2-3。

B．雅歌は、キリストが人生の、歌の中の歌、満足の中の満足であることを強調し、それは「日の下」にある万物の空の空と相対します。

C．ある事がどれほど良く、卓越し、すばらしく、不思議であっても、それが旧創造のものである限り、「日の下」にある空の空の一部分であって、「風を捕らえるようなもの」です（伝 1:14）。伝道の書におけるソロモンの結論は、人生の領域が、その終わりがみじめである堕落した人にとって、弔いの歌のようなものであるということです。

D．天にあり、「日の下」にない新創造だけが、空ではなく実際です。「重要なのはただ新創造です」――ガラテヤ 6:15：

1．旧創造は、神聖な命と性質を持っていません。しかし、神から再び生まれた信者たちによって構成されている新創造は、それを持っています――Ⅱコリント 5:17．ヨハネ 3:15．Ⅱペテロ 1:4。

2．こういうわけで、パウロはわたしたちに、「上にあるものを求めなさい．そこにはキリストがいて、神の右に座しておられます」（コロサイ 3:1）、また「あなたがたの思いを、地にあるものにではなく、上にあるものに置きなさい」（2 節）と命じています。

E．神は人をご自身のかたちに創造し、人の中に霊を形づくって、人が神を受け入れ、内容とするようにしました（創 1:26．2:7）。さらに、伝道の書がわたしたちに告げているのは、神が人の心に「永遠」を置いたということです。それは「神が植えられたものであり、歴代、働いてきた目的のある感覚であって、日の下では、神以外に、何もこの感覚を満足させることはできない」ものです（伝 3:11――詳訳聖書）：

1．わたしたち自身の経験によれば、人生において成功を収めるときはいつでも、内側にむなしさを感じることを、わたしたちは知っています。この事が示しているのは、人の内側には永遠のものに対する切望があるということです。

2．神がそのような切望、そのような求めることを人の心に置いたのは、人が神を求めるためです――参照、使徒 17:26-27。

3．人生におけるどのような成功の享受も、すべて終わります。肉体の命のあらゆる種類の物質的なものには、「終わりの日」があります――ヨハネ 7:37。

4．暫時的な事物は決して人を満足させることはできません。永遠の神、すなわち歌の中の歌としてのキリストだけが、人の心の深い、目的のある感覚を満足させること

ができます――Ⅱコリント 4:18。

Ⅱ．わたしたちがキリストを追い求めることにおけるすべての霊的な原則が、雅歌の追い求める者の勝利を得る生活の第一段階に含まれています。それに続く学課は新しいものではなく、むしろ、さらに深い方法で繰り返された以前からある学課です――雅 1:2―2:7：

A．再生は神の遺伝子をわたしたちの中へともたらします。わたしたちのクリスチャン生活全体のすべての経験は、この遺伝子の中にあります――Ⅰヨハネ 3:9. マルコ 4:26。

B．原則として、雅歌における霊的な高い点はすべて、すでにわたしたちのものです。なぜなら、それらは、神の遺伝子、神の種、神の命の中にあるからです。神の遺伝子、神の種、神の命は、わたしたちの中へと分与されており、またわたしたちの中で成長します――ローマ 8:10．コロサイ 2:19。

Ⅲ．命はパースン、キリストご自身であり、彼を愛することによる以外に、このパースンを享受する道はありません――マルコ 12:30．Ⅰコリント 2:9：

A．わたしたちが極みまで主を愛し、一日中、彼を命の木として享受するなら、召会は、その状態がどのようであっても、直ちにわたしたちにとってパラダイスとなります――啓 2:4，7．Ⅱコリント 12:4 とフットノート 1．ルカ 23:42-43。

B．わたしたちの命としての主はパースンであるので、わたしたちは彼と接触しなければなりません。過去にどれほどキリストを経験し享受してきたとしても、わたしたちはいつもキリストの現在の臨在、現在のパースンを必要とします。わたしたちの主イエスは、「今、分与しているキリスト」です――ヨハネ 8:12．ピリピ 3:13-14。

C．ヨハネ第 14 章 21 節と 23 節が示しているのは、御子がご自身を、彼を愛する者に現すということ、また御父が彼と共に来て、御子を愛する者と共に住まいを造るということです：

1．わたしたちは主イエスを愛して、「主イエスよ、あなたを愛します」と言う必要があります。わたしたちが彼を愛するとき、彼はご自身をわたしたちに現します。これが意味するのは、わたしたちが愛する方との交わりの中で、彼の臨在を持つということです。

2．わたしたちがイエスを愛するなら、イエスはわたしたちを愛し、御父もわたしたちを愛します。御子がご自身をわたしたちに現し、ご自身をわたしたちにとって実際とするとき、御父は彼と共に来て、わたしたちと共に住まいを造り、わたしたちに享受させます――参照、Ⅰコリント 2:9-12。

D．すべての人の主に対する愛の開始は、彼のパースンについてのビジョンです。わたしたちは、主に対する新しい認識と彼に対する新しいビジョンがなければ、前進することができません――使徒 26:14-19．Ⅱコリント 4:6-7．ピリピ 3:8-10 前半，13．参照、申 4:25。

Ⅳ．わたしたちと主との関係は個人的なものでなければなりません――「わたしを引き寄せてください」は個人的です（雅 1:4）。わたしたちが主によって個人的に引き寄せられるので、他の人たちも、わたしたちを通して主に引き寄せられます（エレミヤ 31:3．参照、Ⅱコリント 11:2）：

A．わたしたちは、主との個人的な関係を持ってきた人たちの模範に従う必要があります：

1．わたしたちはアブラハムの模範に従う必要があります。アブラハムは、神の友であ

り、神の願いのためでした――歴代下 20:7．イザヤ 41:8．ヤコブ 2:23．創 18:1-33。

2．わたしたちはモーセの模範に従う必要があります。モーセは、神の臨在を完全な程度に持っており、神の仲間であり、神の権益のためでした――出 33:11-14。

3．わたしたちはダビデとアサフの模範に従う必要があります。彼らは神の家の中で、また神の家のために、神の輝く御顔を尋ね求めました――詩 27:4，8．80:3，7，14-19。

4．わたしたちは主イエスの模範に従う必要があります。彼は絶えず神の御前で生きました。彼は一瞬一瞬、御父の御顔を見ていました――使徒 10:38 後．ヨハネ 8:29．16:32。

5．わたしたちはペテロの模範に従う必要があります。ペテロの主に対する愛が回復されたのは、彼が、自分の天然の強さに少しも信頼せずに、主の羊を牧養し、殉教に至るまで主に従うためでした――ヨハネ 21:15-19．マルコ 16:7。

6．わたしたちはパウロの模範に従う必要があります。パウロはキリストの愛に押し迫られ、キリストの大使としてキリストの御前で生きて、キリストに喜ばれました――Ⅱコリント 2:10．5:9，14-15，20。

B．主を愛し追い求める者が、主との最も個人的な接触を持つことを願っていることは、「口づけ」という言葉で表現されています。口づけは、主との個人的な関係の表現です。なぜなら、だれも同時に二人の人に口づけすることはできないからです――雅 1:2。

Ⅴ．わたしたちと主との関係は愛情深いものでなければなりません――「彼の口の口づけをもって、わたしに口づけしてください！」――「わたしに口づけしてください」は愛情深いものです――雅 1:2：

A．詩篇第 2 篇 12 節は言います、「御子に口づけせよ．……幸いである、すべて彼の中に避け所を得る者たちは」：

1．御子の中に避け所を得るとは、御子キリストの中へと信じ（ヨハネ 3:16，36）、彼をわたしたちの避け所、保護、隠れ場とすることです（詩 18:1-2．31:19-20．34:8．57:1．71:1．91:1-2，4，9．118:8-9．144:2．箴 30:5）。

2．御子に口づけするとは、御子を愛し、こうして彼を享受することです――ヨハネ 14:21，23．参照、詩 91:14。

3．主を信じるとは彼を受け入れることです（ヨハネ 1:12）。主を愛するとは、わたしたちが受け入れた主を享受することです。これらは、わたしたちが主にあずかるための二つの条件です（Ⅰコリント 2:9．参照、16:22）。

B．わたしたちが主との愛情深い関係を持つとき、彼は多くの面で、わたしたちにとって計り知れないほど豊かになって、わたしたちの享受となります――エペソ 3:8．2:7．ローマ 10:12-13：

1．わたしたちに内住している主は、わたしたちの御父であり、また恵みはわたしたちの母です――ローマ 8:15-16．ガラテヤ 4:24-26．イザヤ 66:12-13。

2．わたしたちに内住している主は、わたしたちの夫です――マタイ 9:15．Ⅱコリント 11:2。

3．わたしたちに内住している主は、わたしたちの兄です――ヨハネ 20:17．ローマ

8:29。

4．わたしたちに内住している主は、わたしたちの友です――マタイ 11:19．ヨハネ 15:12-17。

5．わたしたちに内住している主は、わたしたちの助言者です――イザヤ 9:6。

6．わたしたちに内住している主は、わたしたちの弁護者です――Ⅰヨハネ 2:1。

7．わたしたちに内住している主は、わたしたちの慰め主です――ヨハネ 14:16．15:26。

8．わたしたちに内住している主は、わたしたちの牧者です――詩 23:1．Ⅰペテロ 2:25。

Ⅵ．わたしたちと主との関係は私的なものでなければなりません――「王はわたしを彼の奥の間に連れて行かれた」（雅 1:4 後半）。王の奥の間は、キリストの奥の間としてのわたしたちの再生された霊を表徴します（Ⅱテモテ 4:22．エペソ 3:16．2:22）：

A．わたしたちはひそかで、明確な、優勢な方法で、私的に主と接触し、わたしたちの全存在を彼に開いて、彼の照らしと注入を受ける必要があります――マタイ 6:6。

B．地上での最高の職業は、時間を費やして神を注入していただき、わたしたちが神をもって光を放ち、神を輝かし出すことです――出 33:11．Ⅱコリント 3:16，18．4:1．参照、マタイ 14:23．マルコ 1:35．ルカ 5:16．6:12．9:28。

C．わたしたちはキリストをわたしたちの隠れ場、住まい、満ち足りる秘訣として経験し、享受する必要があります――詩 31:20．27:5．90:1．91:1．ピリピ 4:13。

Ⅶ．わたしたちと主との関係は霊的なものでなければなりません（雅 1:4 後半）。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの人の霊（王の奥の間）に住んでおり、これら二つの霊は共にミングリングされて、一つ霊となっています（ヨハネ 4:24．ローマ 8:16．Ⅰコリント 6:17）：

A．キリストは霊的にわたしたちを訪れます。なぜなら、彼はわたしたちの霊の中の命を与える霊であるからです。わたしたちの霊は至聖所であり、それは主の主また王の王としての霊なるキリストの奥の間です――Ⅰコリント 15:45 後半．ローマ 8:16．Ⅱテモテ 4:22。

B．キリストのからだのためにキリストと接触し、キリストを享受するために、わたしたちはミングリングされた霊を活用しなければなりません――Ⅰコリント 2:15 とフットノート 1．エペソ 1:17．2:22．3:5，16．4:23．5:18．6:18。

Ⅷ．わたしたちと主との個人的で、愛情深い、私的で、霊的な関係は、わたしたちが彼の定められた御旨のために彼を愛するようにさせ、わたしたちを「酒宴の家」としての召会生活の中へと導きます（雅 1:7-8．2:4）。そこでわたしたちは、造り変える霊によって造り変えられ、召会生活の中の成就する者たちによって成就されることができます（エペソ 4:11-12）。これらの成就する者たち（あるいは「造り変える者たち」）は、造り変える霊と組み合わされて、三一の神をわたしたちの中へと供給することによって、わたしたちを成就します。それは、三一の神の属性がわたしたちの中へと造り込まれることによってわたしたちが造り変えられ、わたしたちの美徳となり（雅 1:10 後半-11）、キリストの有機的なからだとしての召会を建造して、新エルサレムを究極的に完成し（Ⅰコリント 3:12 前半．啓 21:18-21）、神の永遠のエコノミーを完成するためです。

©2026 Living Stream Ministry

メッセージ　2

雅歌の第二段階――召されて、十字架とのーを通して自己から解放される

聖書：雅 2:8-3:5．マタイ 3:13-17．21:32．16:24

Ⅰ．わたしたちが見なければならないのは、雅歌が、ソロモンによって予表される、復活し、昇天し、御座に着き、来臨する、わたしたちの王としてのキリストを理解し認識することの中へと、わたしたちを導くということです：

A．追い求め愛する者の追い求めることの第一段階は、王が彼女にとってどれほど大切であったかを啓示しています。しかし、彼女の追い求めることの第二段階においては、王が中心であり、それは王が彼女を評価し、彼女を見つめ、彼女を願う時です――雅 2:14。

B．わたしたちがキリストを追い求める第一段階では、キリストがわたしのためでしたが、今や、わたしがキリストのためになっています。詩篇第 45 篇が啓示しているのは、わたしたちが、わたしたちの王である主イエスに対して愛情に満ちた愛を持つなら、わたしたちの舌は速やかに物書く人の筆となって、彼であるすべてにしたがって、彼に対するわたしたちの経験と享受をもって、彼に対するわたしたちの愛と賛美を速やかに書くようになるということです――詩 45:1．マタイ 12:34 後半．Ⅱコリント 3:3，6．イザヤ 6:5-7。

Ⅱ．雅歌第 2 章 8 節から第 3 章 5 節で、キリストを愛する者は、彼によって召されて、十字架とのーを通して自己から解放されます。この区分を解釈するために、三つの極めて重要な言葉がわたしたちを助けます。それは、「十字架」、「自己」、「内省」です。

Ⅲ．「わが愛する方の声！　ご覧なさい、あの方がやって来ます．山々を飛び越え、丘の上を跳びはねて。わが愛する方は、かもしかや若い雄鹿のようです。ご覧なさい、あの方はわたしたちの壁の後ろにじっと立ち、窓からのぞき、格子からうかがっています」――雅 2:8-9：

A．主を追い求める者は、自分の満足のためにキリストを追い求めることにおいて、ある程度の成功を収めた後、内省に陥ります。この内省は隔離する壁となって、彼女をキリストの臨在から引き離します――9 節。

B．内省は、自己を見つめ分析することによって、自己を調べることです。自己は内省で構成されています――参照、Ⅰコリント 4:3-4。

C．わたしたちはイエスをひたすら見つめなければなりません。わたしたちの自己は、見る価値がありません――ヘブル 12:1-2 前半．ヨハネ 3:14-15．12:31-32．民 21:4-9。

D．彼がかもしかや若い雄鹿のように山々を飛び越え、丘の上を跳びはねることは、キリストの復活の力がすべての困難と障害に打ち勝つことを表徴しています。復活の力として、彼は山々を飛び越え、丘の上を跳びはねるキリストです――雅 2:8-9。

E．主を追い求める者は、自分の内省によって失望しますが、主は彼女を春の時期へと召しておられます――10-11 節．参照、ヘブル 3:7-8．ヨハネ 8:58。

F．彼女が自分自身を見つめるとき、それは休眠の冬の時期です。彼女は復活したキリストをひたすら見つめるとき、春の段階、すなわち復活の段階の中へと入ります――雅 2:10-13。

G．勝利の秘訣は、キリストから離れて自分自身を決して見ないことと、自己を決して考慮しないことです。自己はキリストの外にあります――ヘブル 12:1-2 前半。

Ⅳ．「岩の裂け目、崖の隠れ場にいるわがはとよ．わたしに顔の表情を見せなさい．あなたの声を聞かせなさい．あなたの声は甘く、あなたの顔の表情は愛らしい」――雅 2:14：

A．わたしたちが自己から解放されるのは、わたしたちと十字架との一を通して、キリストの復活の力によって、彼の交わりを通してです――14 節：

1．キリストが願っているのは、彼を追い求める者、彼のはとが、絶えず十字架につけられた状態にとどまること、すなわち、岩の裂け目、崖の隠れ場である彼の中にとどまることです――14 節．ガラテヤ 2:20．Ⅰコリント 15:31．Ⅱコリント 4:10-11。

2．しかしながら、十字架にとどまることは難しい事柄であり、起伏のある道を進んで高い山にある岩の裂け目や崖の隠れ場へと入っていくようなものです。

3．わたしたちが十字架につけられるのは、わたしたちの天然の命や力によってではなく、復活の力によって、すなわち、「夜明けの雌鹿」である、山々を飛び越え、丘の上を跳びはねるキリストの臨在によってです――詩篇第 22 篇タイトル．箴 4:18。

4．キリストは、彼を愛する者が起き上がって、自己の内省における低い状態から出て来るようにと力づけ、励ますために、彼の復活の力を見せることによって彼女を力づけ（雅 2:8-9）、彼の復活の繁茂する豊富によって彼女を励まします（10-13 節）。

5．わたしたち、キリストを愛する者は自分の天然の命によってではなく、キリストの復活の力によって、自己を否んで十字架を負うことを決意します。わたしたちはまたキリストの復活の力によって、彼の十字架と一になり、彼の死に同形化されることができます――マタイ 16:24．ピリピ 3:10．ローマ 8:13。

6．復活の実際は、霊なるキリストです（ヨハネ 11:25）。彼は究極的に完成された霊として、わたしたちの再生された霊に内住し、ミングリングされています（ローマ 8:16．Ⅰコリント 6:17）。

B．そのようなミングリングされた霊の中で、わたしたちはキリストの復活にあずかり経験します。この復活は、わたしたちが十字架と一となって自己から解放されることができるようにし、神の新創造の中で新しい人へと造り変えられることができるようにします。それは、キリストの有機的なからだの建造において、神のエコノミーを成就するためです。

Ⅴ．わたしたちは、キリストのからだのために、日ごとに死に、日ごとに自分の十字架を負い、彼の復活の力また豊富としてのその霊によって、キリストの死に同形化されなければなりません――Ⅰコリント 15:31, 36．ルカ 9:23．ピリピ 3:10．参照、ホセア 6:1-3：

A．わたしたちは、時代のビジョンと務めの中へと入ることによって義の道を取り、自分たちは死と葬りにしか役に立たないことを認識しなければなりません。それは、わたしたちが開かれた天、下って来る神の霊、御父の語りかけを享受するためです――マタイ 3:13-17．21:32．参照、エゼキエル 3:1-3。

B．わたしたちは召会生活のために、複合の霊としてのキリストの中で、その甘い効力を伴うキリストの尊い死と、その駆逐する力を伴うキリストの尊い復活を享受しなければなりません――出 30:23-25．ローマ 14:17-18．参照、ピリピ 1:19-21．2:13．

3:10．4:11-13。

C．わたしたちは十字架を負わなければなりません。それは、神のみこころを負うことを意味します。十字架は神のみこころであり、神のみこころはわたしたちの食物です――マタイ 26:39．ヘブル 10:5-10．ヨハネ 4:34：

1．一つの召会は神のみこころであり、召会のすべての兄弟姉妹は神のみこころです。こういうわけで、十字架を担うことは、召会を担うこと、またすべての聖徒を担うことです。それは、わたしたちが真の一を持つためです――エペソ 4:1-3．Ⅰコリント 1:10．ピリピ 2:2。

2．神聖な栄光の中での一が実現するのは、自己が完全に否まれ、わたしたちが自己を中心とするのではなく、からだを中心とするときです――ヨハネ 17:21-23．Ⅰコリント 12:24-25。

3．十字架は、わたしたちの外側の環境における神のみこころであり、わたしたちの内なる存在におけるイエスの殺しです。両者は共に働いて、わたしたちの天然の人を殺し、復活の神をもってわたしたちを造り直します――Ⅱコリント 4:10-12．12:7-10．13:3-4。

4．からだのために十字架を負うことは、キリストの平安にわたしたちの心を裁定させ、赦す主をわたしたちの命とし、主の信者たちを受け入れ、分裂を引き起こして死をまき散らす者たちから離れ去ることです――コロサイ 3:12-15．箴 25:15，20，26．ローマ 15:7．16:17．民 6:6-7．レビ 5:2。

D．わたしたちは、召会生活におけるすべての問題の解決となる命を与える霊としての、十字架につけられ復活したキリストを享受しなければなりません――Ⅰコリント 1:9．2:2．15:45 後半，58。

E．わたしたちは十字架につけられ復活したキリストを命の木として食べ、彼をわたしたちの日ごとの「抗生物質」としなければなりません――啓 2:7．Ⅰペテロ 2:24．3:18．ヨハネ 6:57。

F．わたしたちは、十字架につけられ制限されたイエスを小麦の地として享受し、復活した無限のキリストを大麦の地として享受しなければなりません――申 8:8．ヨハネ 12:24．6:9。

G．わたしたちは、十字架につけられたキリストをわたしたちの霊の岩として享受し、彼から飲み、復活における命の水として彼を流し出すことによって、聖なる所に関する罪科から救われなければなりません――Ⅰコリント 10:4．ヨハネ 19:34．出 17:6．民 20:8．18:1．エレミヤ 2:13．ヨハネ 7:37-39．エゼキエル 47:1．啓 22:1。

H．わたしたちは、十字架につけられ復活したキリストを、わたしたちの住まい、わたしたちの隠れ場、いと高き方の隠れ場としなければなりません――雅 2:14．詩 90:1．91:1．31:20．83:3．イザヤ 32:2．出 33:22．参照、マタイ 6:6．ヨハネ 14:23。

Ⅰ．わたしたちは、錯綜した複雑な状況のただ中で、神に信頼する純粋で単一な生活をする必要があります――雅 2:2．列王上 7:17-20．マタイ 6:28。

J．わたしたちは、絶えず霊を活用して自己を否まなければなりません。自己は、サタンの具体化であり、また神からの独立を宣言する魂でもあります――ローマ 1:9．マタイ 16:22-24。

K．わたしたちは主イエスの模範に従わなければなりません。彼は十字架につけられた生

活をし、神聖な命を表現し、神聖な属性を彼の人性の美徳として生かし出しました。わたしたちの原型として彼に内在的に従うことは、キリストの恵みによって、わたしたちの体にイエスの焼き印を帯びることです――ヨハネ 5:30．Ⅰペテロ 2:21．ガラテヤ 6:17-18。

Ｌ．わたしたちは、神の栄光のために神の霊によって仕え、自分自身を頼みとしてはなりません――ピリピ 3:3．Ⅰテサロニケ 3:13．Ⅱコリント 4:5．Ⅰコリント 10:31．参照、箴 25:28．28:25-26．29:23。

Ｍ．わたしたちは、十字架につけられたキリストのビジョンを見て、キリストの十字架をわたしたちの苦い状況と苦い存在に適用し、復活したキリストをわたしたちのいやす方、またいやす力として享受しなければなりません――出 15:22-27．Ⅰペテロ 2:24．啓 2:7．マタイ 9:12。

Ｎ．わたしたちは、殺し復活させる命の霊の法則の「スイッチを入れ」、自分自身を絶えず主との接触と触れ合いの中に保ち、神聖なエコノミーのための神聖な分与の中にとどまらなければなりません――ローマ 8:2，10，6，11，13。

Ⅵ．わたしたちが十字架とのーを通して自己から解放されることの結果は、わたしたちが復活の命の繁茂を経験し、キリストを経験し享受し、神聖な命において成長し、造り変えを通して美しくされ、キリストのからだの感覚を持つようになり、からだの中で、からだを通して、からだのために生きることです――ピリピ 3:10．コロサイ 2:19．ローマ 12:4-5，15．Ⅰコリント 12:12-27。

©2026 Living Stream Ministry

メッセージ　3

雅歌の第三段階――召されて、復活の中の新創造として、昇天の中で生きる

聖書：雅 3:6―5:1

Ⅰ．キリストを愛する者は、彼女の経験の第三段階において、召されて、復活の中の新創造として、昇天の中で生き、美しくされた、キリストを愛する者となります――雅 3:6―5:1。

Ⅱ．「わが花嫁よ、わたしと一緒にレバノンから、わたしと一緒にレバノンから来なさい。アマナの頂から、セニルとヘルモンの頂から、獅子の洞穴、豹の山から見なさい」――雅 4:8：

A．キリストは、彼を愛する者を召して彼の十字架にとどまらせたように、彼女を召して彼の昇天の中で彼と共に生きさせます――雅 2:14：

1．キリストは、彼の花嫁としての彼を愛する者に、彼の昇天（レバノン）から、すなわち真理（アマナ）の最高峰とキリストの戦いにおける勝利の最高峰（セニルは「柔らかい武具」を意味し、ヘルモンは「破壊」を意味する）から、また敵どもがいる天上の場所（獅子の洞穴と豹の山）から、彼と共に見るようにと求めます。

2．キリストを愛する者が昇天の中で生きているとき、彼女とキリストは一つの状態、すなわち昇天の状態の中で生きて、夫婦となります。両者は命と性質において同じであり、互いに完全に符合しています。

B．昇天の中で生きるとは、絶えずわたしたちの霊の中で生きることです。わたしたちはわたしたちの霊の中で生きるとき、天上の昇天したキリストに結び付けられます――エペソ 2:22．創 28:12-17．ヨハネ 1:51．啓 4:1-2．ヘブル 4:12，16。

C．わたしたちは、いと高き方の隠れ場、すなわち昇天したキリストの中に隠れ、彼をわたしたちの住まいとすることを学ばなければなりません――詩 91:1，14-16．参照、雅 2:14：

1．神をわたしたちの永遠の住まいとすることは、神に対する最高の経験、最も満ち満ちた経験です――詩 90:1-2。

2．わたしたちは神をわたしたちの住まいとするなら、地上でのわたしたちの人生がつかの間であり、罪と苦難に満ちていることを認識します――3-12 節。

3．神の外側には罪と苦難があるので、わたしたちは時々刻々、神の中に住み、彼の中で生きる必要があります――8 節．ヨハネ 16:33。

4．わたしたちは、神の住まいであるわたしたちの霊の中に住むことによって、神の中に住みます。わたしたちの霊の中で、また召会の中で、わたしたちは彼の美しさを見つめ、彼の美しさを注入されて、美しくされた新創造となることができます――エペソ 2:22．ローマ 8:6．詩 27:4．イザヤ 60:7 後半，19 後半．62:3．雅 3:11．箴 12:4 前半。

Ⅲ．「ソロモン王は、レバノンの木で自分のために輿を造った。その支柱は銀、基は金、その座席は紫色の布で造った．その中に、『エルサレムの娘たちから愛を込めて』と縫い取りされていた」――雅 3:9-10：

A．わたしたちの中でのその霊の造り変える働きによって、わたしたちは、キリストの行動する器、キリストが乗るもの、キリストの「車」となります。それは、キリストが

キリストのからだの中で、キリストのからだのために行動するためです――参照、Ⅱコリント 2:12-17。

B．わたしたちは神聖な三一をもって再建造されて、わたしたちの外側の構造は、復活し昇天したイエスの人性となり、わたしたちの内側の装飾は、主に対するわたしたちの愛となります――雅 3:9-10：

1．わたしたちのソロモン王としてのキリストは、わたしたちをご自身のための輿とします。わたしたちの責任はただ、わたしたちの愛を彼にささげ、わたしたち自身を喜んで彼にささげることです――ヨハネ 21:15-17．詩 110:3。

2．わたしたちの内なる存在は、「愛で縫い取られる」べきです（雅 3:10）。主を愛することは、キリストをわたしたちの人性とする領域の中にわたしたちを保ち、彼の愛情が押し迫る中でわたしたちの人性を保護します――Ⅱコリント 5:14。

C．わたしたちが個人的で、愛情深い、私的で、霊的な方法で主を愛することを通して、わたしたちの天然の存在は取り壊されます。またわたしたちはその霊の支配の中でキリストをわたしたちの王とするとき、御子キリストの贖う死（銀で造られた支柱）、父なる神の神聖な性質（基）、わたしたちの内側で支配する命を与える霊（紫色の布の座席）をもって造り直されつつあります――雅 3:10．参照、ローマ 8:28-29．Ⅱコリント 4:16-18。

Ⅳ．わたしたちは復活の中の新創造として昇天の中で生きることを通して、キリストの満足のための彼の私的な園となります――雅 4:10-15：

A．「わが妹、わが花嫁よ、あなたの愛は何と麗しいことか！　あなたの愛はぶどう酒に何とまさり、あなたの香油の香りはすべての香料に何とまさっていることか！」――10 節：

1．追い求める者は、主の愛がぶどう酒に「まさっている」と言いますが、主は、追い求める者の愛がぶどう酒よりも「はるかにまさっている」と言います。わたしたちは主の愛を宝としますが、わたしたちに対する彼の愛がどれほど尊いかを把握することはできません。この事は、わたしたちを愛することにおいてさえ、彼が首位を得ていることを示しています――参照、雅 1:2．ローマ 8:37．Ⅱコリント 5:14。

2．追い求める者は主を愛することを通して、その霊で浸透され、その霊に服従することにおいてその霊によって形づくられ、キリストの香りを放ち、またキリストの香りとなります――雅 4:10 後半，11 後半．ヨハネ 12:3．Ⅱコリント 2:15。

B．「わが花嫁よ、あなたの唇は蜂蜜をしたたらせ、あなたの舌の下には蜜と乳がある」――雅 4:11 前半：

1．乳と蜜は、動物の命と植物の命とのミングリングであり、キリストの命の二つの面、すなわち贖う面と生み出す面です――申 8:8．32:13-14．ヨハネ 1:29．12:24．マタイ 26:26-28。

2．特に、わたしたちが霊の中で弱く、主に来て彼を経験し適用するとき、わたしたちは主が乳と蜜であること、すなわちキリストの命の豊富と甘さを感じます――Ⅱコリント 12:9-10。

3．蜜は打ちひしがれた人を回復し、乳は新しい人を養います。追い求める者は自分の内側に非常に多くの豊富を蓄えてきたので、食物は彼女の舌の下にあるかのようであり、彼女は必要のある人にいつでも分与することができます――イザヤ 50:4．

エペソ 4:29．詩 45:1-2。

4．この甘さは、一晩で生み出されるものではなく、長い時間をかけて集めること、内側の活動、注意深く蓄えることから生じます――参照、出 29:30．詩 92:13-14。

Ⅴ．「わが妹、わが花嫁は、閉じられた園、閉じられた泉、封じられた源泉である……園の源泉、生ける水の井戸、レバノンからの流れである」――雅 4:12，15：

A．主を愛し追い求める者は、彼女の霊的な進歩のこの時点で、キリストの私的な満足のための園となりました。彼女は開かれた園ではなく、閉じられた園、封じられた園です。彼女が持っているすべては、究極的には彼女の愛する方の喜びのためのものであって、他のだれのためのものでもありません：

1．もし信者たちがもう少し閉じていて、さらに堅く封じているなら、彼らの働きはさらに優勢になるでしょう。どうか主がわたしたちに恵みを賜わり、十字架を通してわたしたちの中でさらに深い働きをしてくださいますように。それは、わたしたちが深く根を下ろし、「ひそかに」隠された生活をして、神の要求を満たし、彼の心を満足させるためです――マタイ 6:6．13:20-21。

2．召会生活のためのクリスチャン生活は、深みのある生活、すなわち、「下に根を張り、上に向かって実を結ぶ」ことができる生活です――イザヤ 37:31。

B．「エホバ・神は東のほうのエデンに園を植えられた．そして彼は形づくった人をそこに置かれた」（創 2:8）。聖書によれば、園は神がまさに最初に考えておられたものです。「エデン」は「楽しみ」を意味しており、神が人を喜ばせ、満足させ、幸いにしたいということを示しています。

C．召会生活は神の園、神の農場であり、それによってわたしたちは神の増し加わりをもって成長し、神の豊富をもって造り変えられて、神の建物となることができます――8 節．コロサイ 1:10．2:19．Ⅰコリント 3:9．啓 22:1-2．参照、出 25:31-32。

D．神は人を園に置いて、「それを耕させ、それを見張らせられた」のです――創 2:15：

1．人が地を耕すことは、命、特に命の木が成長して、神の定められた御旨の第一の面（人が神のかたちをもって神を表現すること）を成就するためです。地を耕すとは、わたしたちの心を対処して、それをキリストが成長することのできる良い地とすることです――創 1:26 前半．マタイ 13:3-23。

2．人が地を見張ることは、園を神の敵から保護して、神の定められた御旨の第二の面（人が神の権威によってサタンを対処すること）を成就するためです。地を見張るとは、知識の木、死の木としてのサタンに、何の隙も与えないことです――創 1:26 後半．Ⅱコリント 5:4．11:3．Ⅰコリント 15:26．参照、レビ 5:2。

E．わたしたちがキリストを享受するのは、キリストの享受と満足のためです。主がわたしたちにとってすべてであるのは、彼がわたしたちからのすべてを享受することができるためです――雅 1:12-14．4:12-14．5:1。

F．この園には、源泉と生ける水の井戸があります。父なる神は源泉であり、御子なる神は井戸であり、霊なる神は流れる水流であって、それはわたしたちが流れる三一の神を享受して、新エルサレムとなるためです――雅 4:15．ヨハネ 4:14 後半。

G．「北風よ、目覚めよ．南風よ、来たれ！　わたしの園に吹き、その香りを漂わせよ」――雅 4:16 前半：

1．北風（冷たく、厳しく、苦々しく、困難なもの）と南風（温かく、穏やかで、新鮮

で、喜ばしいもの）は、主が信者たちを訓練して、ご自身を彼らの満ち足りる秘訣として享受させるために用いる、二つの異なる環境です――ピリピ 4:11-13，5-7．1:20。

２．主を追い求める者は、すべての問題が外側からではなく、内側からやって来ることを認識しています。彼女は、三一の神の臨在としてのその霊で満たされている限り、いかなる環境の中でも喜んでキリストを生き、表現することができることを知っています。

©2026 Living Stream Ministry

メッセージ　4

雅歌の第四段階――さらに強く召されて、復活の後の十字架を通して幕の内側で生きる

聖書：雅 6:4 前半，13

Ⅰ．キリストを愛する者は、復活の中の新創造としてキリストの昇天の中に生きることを通して、キリストの命の豊富の中で円熟し、キリストにとって園（雅 4:12―5:1．6:2）となるだけでなく、またテルザによって表徴される神の聖なる所、またエルサレムによって表徴されるその保障となります（4 節前半）：

A．王は、彼を愛し追い求める者の美しさを称賛し、こう宣言しています、「わが愛する者よ、あなたは美しいことテルザのよう、愛すべきことエルサレムのよう……である」――4 節前半。

B．テルザは、イスラエルの王たちの首都であり、王宮のある場所でした（列王上 14:17．15:21．16:23）。ここでは積極的な意味で述べられており、神の聖なる所、すなわち王としての神の住まいを表徴します。聖なる都エルサレムはユダの首都であり、地上での神の住まい（宮）の保障でした。

C．旧約で、神の建造は、テルザとエルサレムによって予表されています。新約で、この建造は、キリストの有機的なからだです。究極的に、キリストの有機的なからだ（キリストの妻でもある――エペソ 5:25-32．参照、創 2:22）の建造は、新エルサレム、すなわち、至聖所の究極的完成としての聖なる都、永遠における神と彼の贖われた者たちとの相互の住まいを究極的に完成します（啓 21:2-3，16，22）。

Ⅱ．キリストにとって園となることは、計り知れない豊富を伴うキリストの命の要素の中で繁茂することです。神の聖なる所となるとは、キリストの命とその計り知れない豊富をもって成長し円熟に至ることによって、建造されることです（キリストのからだの建造と関係がある）――エペソ 3:8．4:12-16：

A．神の聖なる所は天にありますが、幕によって二つの部分に分けられています。幕はわたしたちの肉を表徴します――ヘブル 10:19-20。

B．キリストに関して、神の聖なる所にある幕はキリストが十字架につけられた時に裂かれましたが（マタイ 27:51）、信者たちに関して、幕は依然として残っています。それは神が彼らを対処するためです。

C．使徒パウロはキリストの命において円熟し、キリストの昇天の中に生きていましたが、神はなおもサタンの使いを通して、彼が高ぶり過ぎないように、肉体に一つのとげを持つようにしました――Ⅱコリント 12:7。

D．神はご自身のエコノミーの中で、まず、わたしたちの霊の中で、彼の復活の命をもって、わたしたちを再生します（ヨハネ 3:6．ローマ 8:10．Ⅰペテロ 1:3）。次に、わたしたちの魂の中で、内側の新陳代謝の過程によって、わたしたちを造り変え、キリストと彼の豊富をわたしたちの新しい要素としてわたしたちの存在の中へともたらし、わたしたちの古い、天然の要素を徐々に排出します（Ⅱコリント 3:18．ローマ 8:2）。最終的に、主が戻って来られるとき、わたしたちの体は変貌させられて、キリストの栄光の体に同形化されます（ピリピ 3:21．ローマ 8:23）。

Ⅲ．わたしたちは、依然として主によって究極的に召されて、神の新創造として、主の復活を経験した後、十字架がわたしたちの肉を対処することをさらに強く経験することを

通して、幕の内側に生きる必要があります：

A．キリストを愛する者が、雅歌の第一段階で、満足を得るためにキリストを追い求め、それを獲得した後、内省によって隔離されていた時、主はまず彼女を召して、ご自身の十字架を経験させることによって自己から解放されるようにしました。それから主はさらに彼女を召して、復活の中の神の新創造として、ご自身の昇天の中で生きるようにしました。今や究極的に、主は彼女を召して、幕の内側で生きさせ、至聖所、すなわち神ご自身の中で、キリストの中に具体化されている、究極的に完成された神を享受させます――参照、ヘブル 10:22：

1．神のエコノミーによれば、わたしたちがどれほど円熟し霊的になっても、地上に生きている限り、すなわち、わたしたちの体がまだ変貌させられていない限り（ローマ 8:23．ピリピ 3:21）、わたしたちには依然として肉、すなわち幕があります。

2．わたしたちは毎日、十字架の対処を経験することによって幕を通過し、幕の内側、すなわち至聖所の中で生きることを学ぶ必要があります――Ⅰコリント 15:31．ルカ 9:23。

3．わたしたちは至聖所の中へと入るとき、神の中へと入り、聖なる所となります。この意味で、わたしたちは神格においてではなく、命と性質において神となります。真のシュラムの女として、わたしたちは「真の神、また永遠の命」であるキリストの複製また再生産となります――Ⅰヨハネ 5:20。

4．至聖所の中の契約の箱には、わたしたちの経験と享受のための三つのすばらしい項目があります：

a．金のつぼの中の隠されたマナは、すべての供給の神聖な源である父なる神を指しています――出 16:32-34．啓 2:17 前半。

b．芽を出した杖は、復活であるキリストを表徴します。神聖な三一の三者のうち、第二者は復活です――民 17:1-11．ヨハネ 11:25。

c．律法の板は、わたしたちの霊の中の内なる法則である命の霊の法則を指しており（ローマ 8:2, 10）、それは契約の板によって表徴されています（出 25:16．31:18．申 10:1-5．エレミヤ 31:33）。

d．わたしたちが見る必要があるのは、御父がわたしたちの中におられ（エペソ 4:6）、御子がわたしたちの中におられ（コロサイ 1:27．Ⅱコリント 13:5）、その霊がわたしたちの中におられる（ローマ 8:9）ということです。

e．こういうわけで、父、子、霊は至聖所の中に住んでいます。わたしたちは、実行上の至聖所であるわたしたちの霊の中へと入るとき、神の中へと入り、供給の源である御父、復活である御子、命の法則であるその霊に会います。

B．至聖所、すなわち究極的に完成された三一の神の中で、キリストを追い求めるすべての者は、ここにおいて、手順を経て究極的に完成された三一の神を最も満ち満ちた程度にまで享受します。これが、雅歌において提示されている、キリストを愛する者の経験における最高の段階です。

Ⅳ．究極的に、わたしたちは同形化されて、すばらしいシュラムの女になります。彼女はソロモンの複製として、キリストの配偶者である新エルサレムの、最大で究極的な型です――雅 6:13．啓 21:2, 9-10．22:17 前半：

A．ソロモン王が田舎男となって田舎娘に求愛し、彼女を自分の王妃、自分の複製とした

ように、神はキリストの中で人と成って人に求愛し、人を神格においてではなく、命、性質、表現、機能において神とならせ、キリストの花嫁とします――マタイ 9:15. 啓 19:7. 参照、詩 45:1-3, 9, 13-14。

B．聖書が啓示しているのは、神が人と成ってわたしたちに求愛したということ、また今やわたしたちが彼に求愛して、彼との個人的で、愛情に満ちた、私的で、霊的な関係を通して、神聖になって彼を表現することを、神が願っているということです――伝 1:2. 雅 1:1-8. 参照、Ⅱコリント 2:10. 出 33:11. ローマ 8:4, 6. Ⅰコリント 2:15。

C．「シュラムの女」は、「ソロモン」の女性形です。これは、今や勝利者たちが、神格においてではなく、命、性質、表現、機能においてキリストと同じになって、神のエコノミーを遂行することを示します。

D．シュラムの女は、神の目に、二つの陣営あるいは二つの軍隊（ヘブル語は「マハナイム」）の踊りにたとえられています。ヤコブは、神の御使いたち、すなわち神の二つの軍隊を見た後、自分がいた場所をマハナイムと名づけ、自分の妻たち、子供たち、所有物を「二つの軍隊」に分けました――雅 6:13. 創 32:1-2：

1．ヤコブがエサウと対面するために進んでいた時、神の御使いたちがヤコブに会いました。そして、彼はその場所の名をマハナイムと呼びました――1-2 節。

2．ヤコブは、神の御使いたちを神の二つの軍隊として見た後、妻たち、子供たち、所有物を二つの群れ、あるいは「二つの軍隊」に分けました。これは、わたしたちが勝ち得て余りある者であり、力強い証しを担っていることを示しています――7 節。

3．それが示しているのはまた、神が「巨人」を願っておらず、脆弱な者、より弱い者、すなわち女や子供だけを願っているということです――Ⅱコリント 11:29. ローマ 9:16。

4．神は、自分自身の中で強い者を願いません。勝利者と勘定される者は、からだの原則の中で完全に主に依り頼んでいる、より弱い者たちです――Ⅰコリント 1:26-28. Ⅱコリント 11:29. 12:9-10. 13:3-5. 啓 3:8. Ⅰペテロ 5:5. 申 32:30. 伝 4:9-12. ローマ 9:16. 16:20。

5．二つの軍隊の霊的な意義は、わたしたちがキリストのからだの原則にしたがって、わたしたちを愛してくださった方を通して、勝ち得て余りがあるという力強い証しです――ローマ 8:37. 12:5. 申 32:30. 伝 4:9-12。

6．神は、ご自身と一である人、編んだ髪によって表徴される、神に服従する人（雅 1:11）、また宝石の首飾りを着けた首によって表徴される、柔軟な意志をもって神に従順である人を必要とします（10 節）。

7．わたしたちは神聖な啓示の最高峰にどのように到達するかを考えるとき、自分自身に信頼するのではなく、愛、力、あわれみとしての主に依り頼み、わたしたちをあわれみと尊貴と栄光の器としていただくべきです――ローマ 9:16, 21-23. 雅 8:5-6。

©2026 Living Stream Ministry

メッセージ　5

雅歌の第五段階――主の働きにあずかる

聖書：雅 7:1-5, 11-12

Ⅰ．ソロモンは、多くのぶどう園の主であり（雅 7:12）、それらのぶどう園は多くの労苦を必要としました。この時点で、シュラムの女は主の働きにあずかり、神の同労者とならなければなりません。人が神と共に働き、神の同労者となることができるとは、何という特権であり栄光でしょう（Ⅰコリント 3:9. Ⅱコリント 6:1 前半）！

Ⅱ．主の働きにあずかるために、わたしたちは資格づけられる必要があります。わたしたちの資格は、人性の美徳において表現された神聖な命の属性すべてで装備されることにかかっています。その霊は、愛する者の美徳を述べます。このような美徳は、神聖な命における彼女の円熟のしるしであり、主と共に働く資格を彼女に与えます――雅 7:1-5. 参照、Ⅱコリント 1:12. 2:14-17. 11:10 前半. Ⅰテサロニケ 2:1-12：

Ａ．神の唯一の働きは、神ご自身をキリストの中で彼の選ばれた民の中へと造り込み、キリストのからだのために、彼ご自身を彼らと一にすることです――ガラテヤ 4:19. エペソ 3:17 前半. エペソ 4:16：

１．わたしたちは、わたしたちという人が何であるか（what we are）を超えて神に仕えることはできません。パウロは言います、「神の恵みによって、今のわたしがあるのです（I am what I am）……」。パウロは、恵みとしてのキリストで満たされ、構成された人でした。その恵みとは、わたしたちの享受のための神です――Ⅰコリント 15:10 前半。

２．この結果として、パウロは続けて言います、「そしてわたしに対する神の恵みは、無駄にはなりませんでした．それどころか、わたしは彼らのだれよりも多く労苦してきました．しかし、それはわたしではなく、わたしと共にある神の恵みです」――Ⅰコリント 15:10 後半。

３．「わたしではなく、……神の恵みです」は、ガラテヤ第 2 章 20 節の「もはやわたしではありません．キリスト……です」に等しいです。こういうわけで、パウロの中で働いていた恵みは、何らかの事柄やものではなく、生けるパースン、すなわち復活したキリストでした。彼は、父なる神の具体化であり、すべてを含む、命を与える霊と成り、使徒の中に住み、彼のすべてとなりました。

４．パウロの務めは、キリストの豊富を神の恵みとして、彼ご自身の選ばれた民の中へと分与し、彼らに享受させることであり、その結果は召会の建造でした――エペソ 3:2。

Ｂ．雅歌では、主の愛する追い求める者は、「王女」として述べられています（7:1）。これが示しているのは、キリストを愛する者が、キリストの王なる命において円熟に到達し、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を通して、命の中で王として支配すべきであるということです（ローマ 5:17）。

Ｃ．その霊は、福音の宣べ伝えにおいて（サンダルの中の足取り）、彼女の美しさを述べます――雅 7:1. ローマ 10:15：

１．福音の宣べ伝えは、わたしたちが地によって汚されることから、保護し、守ります。召会における神の武具の一部は、「平和の福音を確固とした土台として足に」はく

ことです――エペソ 6:13，15。

2．キリストは十字架上で、神と人の両方に対して、わたしたちのために平和をつくりました。この平和がわたしたちの福音となりました（エペソ 2:13-17）。この平和の福音は、確固とした土台として、すなわちわたしたちの足にはくことのできる備えとして建て上げられました。

3．このようにはくことによって、わたしたちは足元を確固なものとし、立って霊的戦いを戦うことができます。そのような確固とした土台のための平和は、キリストです――エペソ 6:14。

D．主は、ご自身を愛する追い求める者について言います、「あなたの首は、象牙の塔のようだ」。予表において、象牙は復活の命を表徴しています。こういうわけで、彼女の首は、彼女の意志を表徴しており、復活の命に満ちています――雅 7:4。

E．次に主は、彼女の目について語ります、「あなたの目は、バテラビムの城門のほとり、ヘシボンの池のようだ」――雅 7:4：

1．雅歌第 1 章 15 節では、彼女の目は、はとの目にたとえられていました。しかし雅歌第 7 章 4 節では、彼女の目は池にたとえられています。はとの目は霊的ですが、池のような目は、光に向かって完全に開かれており、全宇宙を覆うほどに拡大され、広げられています。

2．これらの池は、出入りするための門のそばにあり、行き来する交わりを表徴しています。行き来する交わりは、わたしたちの広げられた視野（sight）にかかっています。これらは反射する池であり、彼女の目（sight）は光に満ちていることを示しています。

3．わたしたちは、視野が拡大されて、自分のいる所の働きを見て顧みるだけでなく、全地と全宇宙における主の権益をも顧みなければなりません。

F．主は、彼女を高く評価します。なぜなら、彼女の「鼻は、……レバノンの塔のよう」であるからです――雅 7:4：

1．レバノンの塔のような鼻が意味するのは、主の愛する追い求める者が、高度で鋭敏な識別力を伴う霊的な感覚を持っているということです。ピリピ第 1 章 9 節が示しているのは、わたしたちが愚かに他の人たちを愛するのではなく、全き知識と鋭敏な知覚に満ちあふれる愛をもって、冷静に彼らを愛するということです。

2．嗅覚は、円熟した者たちにだけ見いだされます。この感覚は、語られた言葉や見えるものから来るのではありません。それは、わたしたちの霊の中の直覚から来る内側の能力であり、人が良いにおいと悪いにおいを識別することができるようにします。

3．この霊的な直覚は、人が神に属するものを知覚することができるようにします。それは、理屈や論理によるのではなく、自然に生じる、内側にある正確な感覚によります。この感覚は、人が霊的な事柄を識別することができるようにします。

4．同時に、この嗅覚は、人が悪いにおいをも知覚することができるようにします。多くの教えは、間違っているとは考えられず、多くの人には、他の人たちが見いだすことのできる欠点は何もありません。しかし、わたしたちは何かがおかしいと感じます。

5．あなたは主のしもべに、すべてはとても良いと言うかもしれません。しかし、彼は

直ちに、何かが間違っている、何かが真実ではない、何かが主と調和していないと感じます。これは主の働きの保護です。

6．レバノンの塔のような鼻は、その高さと鋭さを語っています。今日、あまりに多くのクリスチャンが、欠けた鼻、あるいは平らな鼻を持っています。それは、神に対するわたしたちの奉仕において、感知する能力としてのキリストに欠けていることを表徴し、わたしたちが祭司職を果たす資格を失わせます――雅 7:4. レビ 21:18。

7．欠陥のゆえに祭司職を果たす資格を失うことが表徴しているのは、キリストに欠けている者はだれでも、食物としてのキリストを神に供給することができないということです――レビ 21:17-21。

G．その霊は、彼女の思考と意図（頭）において、彼女の美しさを述べています。この思考と意図は、神のために強いのです（カルメル――参照、列王上 18:19-39）。またその霊は、彼女の献身のための服従と従順において、彼女の美しさを述べています（彼女の頭の髪――参照、民 6:5 前半）。この服従と従順は、神の栄光のためであり（紫）、王である彼女の愛する方を捕らえます（とりこ）（雅 7:5）。

Ⅲ．「さあ、わが愛する方よ、野に出て行って、村里に宿りましょう。わたしたちは、早く起きてぶどう園に行き、ぶどうの木が芽を出したか、花が咲いたか、ざくろの花が咲いたかを見ましょう．そこでわたしの愛をあなたに与えましょう」――雅 7:11-12：

A．「村里に宿りましょう」――「村里」は複数形です。彼女は、主の寄留する性質を完全にまとっています。その性質は、一つの場所に限定されるものではなく、一つの村里から別の村里へと移るものです。彼女は主に従い、失われた羊と傷ついた者たちを捜し求めます。

B．キリストを愛する者は、自分の愛する方と共に、一つの場所から別の場所へ寄留する（村里に泊まっている）ことによって、全世界（野）のための働きを遂行することを願っています。これは、彼女が主の働きを遂行することにおいて、分派的ではないことを示しています。彼女は働きを開かれたままにします。それは、他の人たちが来て、そこに寄留し、自分も他の場所へと寄留することができるためです。これは、一つからだの中で、一つ働きを保つことです。

C．「早く」は、主の働きにおける彼女の勤勉さを示しています。早朝における働きは、欠かすことができません。怠惰は、主の命の特質ではありません。真に霊的な者だけが勤勉であることができます。勤勉と怠惰の違いは、時間の使い方にあります――エペソ 5:16．コロサイ 4:5。

D．主の働きにあずかることは、単に主のために働くことではなく、主と共に働くことです（Ⅰコリント 3:9 前半．Ⅱコリント 6:1 前半）。主と共に働くためには、わたしたちは命における円熟を必要とし、主と一になる必要があり、わたしたちの働きは主のからだのためでなければなりません。

E．シュラムの女は、ソロモンの配偶者として働き、すべてのぶどう園（雅 8:11）、すなわち全地の諸召会と信者たちを顧みます。これが示しているのは、わたしたちの働きが、一つの都市だけのためではなく、からだのためであるべきであるということです。

F．わたしたちは、全世界のための働きを持たなければなりません。これは、パウロが行

なったことです。パウロは諸地方召会を設立し、それから働いて、彼らをキリストのからだ全体のブレンディングの生活の中へともたらし、彼らがキリストのからだを完全に認識するようにしました――ローマ 16:1-27. Ⅰコリント 12:24-25 前半。

G. 彼女と彼女の愛する方は、諸召会（ぶどう園）の中で勤勉に働きます。それは、他の信者たちが芽を出し、開花し、花を咲かせるためです。主の働きのただ中で、主を愛する者は言います、「そこでわたしの愛をあなたに与えましょう」――参照、雅 7:12。

H. もしわたしたちが愛する方と共に働くなら、わたしたちは主の働く場所において、彼に対する愛を表現すべきです。これは何とすばらしいことでしょう！――マルコ 12:30。

Ⅳ. 初めのわざ（働き）とは、初めの愛から生じる働きであり、また初めの愛を表現します（啓 2:4-5）。わたしたちが主に対する初めの愛で満たされ（4 節）、彼に万物のうちで第一位を与えるとき（コロサイ 1:18 後半）、わたしたちが行なうあらゆる事は、主に対するわたしたちの愛から生じ、主に対するわたしたちの愛を表現します（ヨハネ 21:15-17. エペソ 4:16. Ⅱコリント 5:14-15, 20）：

A. 信者の働きの初めにおいて、彼は、自分の以前の外側の働きの空虚さから救い出されなければなりません。彼は、人が彼にゆだねたことだけを行ない、神が彼のために定めたことを行なっていなかったのです――雅 1:6 後半-8。

B. 信者が自己から救い出されるとき、彼の心は、自分の個人主義的な働きから主の働きへと解放されます。そして、すべての聖徒の状態、最も未熟な信者でさえも、彼の興味となり、彼の関心の対象となります。

C. 今や、主の愛する追い求める者は、主の働きを主ご自身へと結び付けることができます。そして、彼女は自分の働きを主に対する愛の表現とすることができます。

D. 彼女の労苦のすべては、「愛の労苦」であり（Ⅰテサロニケ 1:3）、彼女の心の中に注がれた、神の愛から生じたものです（Ⅰヨハネ 4:19. ローマ 5:5）。

Ⅴ. 「わたしの愛する兄弟たちよ、堅く立って、動かされることなく、いつも主の働きに満ちあふれていなさい. あなたがたの労苦は主にあって無駄になることはないと、知っているのですから」――Ⅰコリント 15:58：

A. 主に対する初めの愛によって動機づけられている働きだけが、金、銀、宝石です――3:12。

B. 主の働きにおけるわたしたちの労苦は、わたしたちの天然の命と天然の能力によるのではなく、主の復活の命と主の復活の力によるのです。

C. そのような労苦は、神の永遠のエコノミーを成就するという結果になります。それは、罪人にキリストを宣べ伝え、聖徒たちに命を供給し、金、銀、宝石としての手順を経た三一の神に対する経験をもって召会を建造することを通してです――12 節。

©2026 Living Stream Ministry

メッセージ　6

雅歌の第六段階――携え上げられることを望む

聖書：雅 8:1-7，13-14

Ⅰ．命における成長と造り変えを通して、キリストを愛する者は命において円熟し、肉を持っていることを除いて、あらゆる面でキリストと同じになったという程度に至ります。彼女は肉のためのうめきから救われることを望んでいます。これは、彼女が体の贖いを通して携え上げられるのを望んでいることを示します――雅 8:1-4．ローマ 8:23．Ⅱコリント 5:1-8．エペソ 4:30 後半．ピリピ 3:21。

Ⅱ．「自分の愛する方に寄りかかって、荒野から上って来る者はだれか？」――雅 8:5 前半：

A．キリストを愛する者は、かつて一人で霊的荒野（この世の環境）から上って来ましたが（3:6）、今は彼女の愛する方に寄りかかって肉の荒野（地的な領域）から上って来ます。彼女は寄る辺なき者のようにキリストに信頼します：

1．「自分の愛する方に寄りかかって」が暗示していることは、主から離れては自分が無力であり、歩くことができないと、彼女が感じているということです。彼女は自分自身を、愛する方に背負っていただく荷とします――Ⅱコリント 12:9-10．13:3-4。

2．「自分の愛する方に寄りかかって」が暗示していることは、ヤコブと同じように、彼女のももの つがいが触れられて、彼女の天然の力が主によって対処されたということです――創 32:24-25。

3．「自分の愛する方に寄りかかって」が暗示していることは、彼女が自分がひどく圧迫されているのを見いだしているようであり、これが荒野の行程が終わるまで続くようであるということです――Ⅱコリント 1:8-9。

4．主に信頼する生活が不可欠です。わたしたちは、聖霊が「自分の愛する方に寄りかかって……上って来る者はだれか？」と叫ばれるまで、寄る辺なき者のように彼に信頼すべきです：

a．「民よ、どんな時にも彼に信頼せよ．あなたがたの心を彼の御前に注ぎ出せ．神はわたしたちの避け所である」――詩 62:8。

b．「朝にあなたの慈愛を聞かせてください．わたしはあなたに信頼するからです。歩むべき道をわたしに知らせてください．わたしはあなたに向かってわたしの魂を上げるからです」――143:8。

c．「エホバに信頼する者たちは、シオンの山のようである．それは動かされることがなく、永遠に存続する」――125:1。シオンの山に関しては、詩 48:2 のフットノート 1 を参照。

B．彼女は主の来られるのを待っているとき、主と共に出て行って、彼を迎えます（参照、マタイ 25:1）。わたしたちの愛する方に寄りかかることによって、わたしたちは絶えず彼をわたしたちの「出て行く」力として享受し、この世を後にします（創 5:22-24．ヘブル 11:5-6）。

Ⅲ．「わたしをあなたの心に印のようにし、あなたの腕に印のようにしてください．愛は死のように強く、ねたみはシェオール［陰府］のように残酷だからです．そのきらめきは

火のきらめき、エホバの炎です」――雅 8:6：

A．彼女は、愛する方に、彼の愛（心）と彼の力（腕）によって自分を守ってくださるようにと求めます。なぜなら、彼の愛は揺り動かされ得ない死のように強く、彼のねたみは征服され得ないシェオール［陰府］のように残酷であるからです。シェオール［陰府］はねたむエホバのようであり、彼は焼き尽くす火であって（申 4:24）、すべての消極的な事物を焼き尽くします。

B．「彼女が自分の元の状態を思い起こす時、へりくだりの感覚で満たされざるを得ません。彼女は自分が空っぽであることを、自分の経験のむなしさを、自分の思いの頼りなさを、自分の追求の無益さを、考えないわけにはいきません。主だけが彼女の唯一の望みです。彼女は、自分が最後まで忍耐することができるかどうかは、自分の忍耐にかかっているのではなく、主の保護にかかっているのだということを認識します。霊的な完全さは、主の再来まで人を支え続けることはできません。あらゆるものは、神と、神の保護する力にかかっています。彼女はそのことを認識する時、『わたしをあなたの心に印のようにし、あなたの腕に印のようにしてください』と叫ばずにはいられなくなります。心は愛の場所であり、腕は力の場所です。『わたしを永遠にあなたの心に印のようにし、あなたの腕に印のようにして消えないようにしてください。祭司がイスラエル人をその胸と肩に担ったように、あなたの心において絶えずわたしを思い起こし、あなたの腕でわたしを支えてください。わたしは、自分が弱く、空っぽであることを知っています。またわたしは、自分の無力さに気づいています。主よ、わたしは望みのない人です。あなたが来られるまで、わたしが自分を守ろうとしても、それはただあなたの御名を辱め、自分自身に損失をもたらすことにしかなりません。あなたの愛とあなたの力だけが、わたしのすべての望みなのです。かつてわたしはあなたを愛していました。しかし、わたしは、その愛が頼りにならないことを知っています。今わたしは、あなたがわたしに対して持っておられる愛だけに頼ります。わたしはかつて、あなたを握っていました。それは力強く握りしめているかのようでした。しかし、今やわたしは、わたしが最も強く握りしめることでさえも、それは弱さにすぎないことを認識します。わたしの信頼は、自分の握りしめる力にあるのではなく、あなたの握りしめる力にあります。わたしはもはや、あなたに対するわたしの愛をあえて語りません。わたしはもはや、あなたを握りしめることをあえて語りません。今から後、すべてはあなたの力とあなたの愛にかかっています』」――ウオッチマン・ニー。（ウオッチマン・ニー全集、第 23 巻、「歌の中の歌」、第 6 区分）

C．彼の愛は試練によって消すこともできず、迫害によっておぼれさせることもできず、財産によって換えられることもできません――雅 8:7．ローマ 8:35-39．Ⅰコリント 13:1-3。

Ⅳ．雅歌の最後の二つの節は、わたしたちが用意されてキリストの花嫁となり、彼の来臨を早め、彼を連れ戻すために極めて重要です――「園の中に住む者よ．わたしの仲間たちは、あなたの声に耳を傾けています．わたしにそれを聞かせてください。わが愛する方よ、急いでください．香料の山々の上のかもしかや、若い雄鹿のようになってください」――雅 8:13-14：

A．彼女は、園、すなわち造り変えられた信者たちの中に住む方としての、彼に呼びかけます。彼女は、自分の仲間たちが彼の声に耳を傾けていると言います。それから、彼

女は主に、「わたしにそれを聞かせてください」と切に求めます。

B．わたしたちの日ごとの祈りは、「主よ、今日、あなたの声、わたしの愛する方の声を聞かせてください」でなければなりません。主は追い求める者に、「あなたの声を聞かせなさい」と言われます（参照、2:14）。わたしたちは主の御声を聞くことを願い、彼はわたしたちの声を聞くことを願われます。それは、相互に親密な交わりを共に持つためです。

C．わたしたちの命は、主の言葉にかかっており、わたしたちの働きは、彼の命令にかかっています。キリストを愛する者としてのわたしたちが、わたしたちの愛する方としての彼のために働くとき、彼との交わりを維持し、常に彼に聞く必要があります。

D．わたしたちの祈りの中心点は、わたしたちが主の語りかけを切望することであるべきです――啓 2:7．イザヤ 50:4-5．出 21:6。

E．主の言葉がなければ、わたしたちには何の啓示も、何の光も、何の知識もありません。信者の生涯は、完全に主の語りかけにかかっています。

F．こういうわけで、「お話しください．あなたのしもべは聞いております」（サムエル上 3:10）と言ったサムエルのように、また「主の足もとに座って、主の言に聞き入っていた」（ルカ 10:39）マリアのように、わたしたちが聞く者としての態度を持つことは極めて重要です。これらの終わりの日々における主の召しは、「耳のある者は、その霊が諸召会に言われることを聞くがよい」（啓 2:7 前半）です。

G．主が戻って来られるために、わたしたちが彼の御声を聞き、耳を傾けることに関する雅歌第 8 章 13 節から 14 節は、エペソ第 5 章 25 節から 27 節と内在的に関係があります。エペソ人への手紙のこれらの節は、神のエコノミー全体を要約しています：

1．25 節は、キリストが召会を愛して、召会のためにご自身を捨てたと言っています。彼が死んでわたしたちを贖い、わたしたちを買い取られたのは、わたしたちが彼の花嫁となることを彼が願っているからです。この節は、キリストが彼の法理的な贖いを伴うわたしたちの贖い主であることを啓示しています。

2．26 節は続けて、彼が召会のためにご自身を捨てたのは、「キリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるため」であると言っています。この節は、キリストが花嫁の用意のための彼の有機的な救いを伴う、命を与える霊であることを啓示しています：

a．現在、キリストは命を与える霊です（Ⅰコリント 15:45 後半）。そして、彼は命を与える霊として、ご自身の言葉の中に具体化されています（ヨハネ 6:63．エペソ 6:17-18．Ⅱテモテ 3:16）。

b．エペソ第 5 章 26 節の「言葉」は、「ロゴス（logos）」ではなく、「レーマ（rhema）」です。レーマは、わたしたちに対する、主の、即時的な、現在の、生きた、個人的な、言葉であって、古いものを新陳代謝的に洗い去り、それを新しいもので置き換え、内側の造り変えを生み出すためです。

c．わたしたちは個人的に、わたしたちの愛する方の御声、すなわち、わたしたちに対する彼の即時的な、現在の語りかけを、毎日聞く必要があります。主の語りかけは、内側で新陳代謝的に、神の流れる命をもってわたしたちを清め、洗って、わたしたちを聖別し、造り変えます。わたしたちが今やそのような洗う過程の中

にいるのは、召会が聖くて傷のないものになるためです。

３．エペソ第 5 章 27 節は言います、「しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです」。この節は、キリストが花嫁をささげるための花婿であることを啓示しています：

ａ．過去、キリストはわたしたちの贖い主でした。現在、彼は命を与える霊です。そして将来、彼は花婿として、彼の満足のために、召会を彼の配偶者、すなわち真のシュラムの女として、ご自身にささげます――雅 6:13。

ｂ．しわはわたしたちの古さを表徴し、しみはわたしたちの天然の命を表徴し、「そのようなもの」はわたしたちの中の旧創造に属するすべてのものを表徴します。これらのものは、彼の言葉の中の水によって洗い去られ、わたしたちは彼の造り変えられた新創造、彼のシュラムの女となります。

ｃ．わたしたちに対する彼の個人的で、特定の、直接の語りかけは日ごとに、わたしたちの用意を整えて彼の栄光の花嫁とならせます。それは、彼が再び来てわたしたちと結婚することができるためです――「わたしの仲間たちは、あなたの声に耳を傾けています．わたしにそれを聞かせてください」――8:13。

Ⅴ．雅歌という詩的な書の結論の言葉として、キリストを愛する者が祈り求めるのは、彼女の愛する方が復活の力（かもしかと若い雄鹿）の中で急いで戻って来て、全地を満たす彼の甘くて美しい王国（香料の山々）を設立してくださるようにということです――雅 8:14．啓 11:15．ダニエル 2:35：

Ａ．主は、「しかり、わたしはすぐに来る」と言われます。使徒ヨハネの応答は、この言葉を主に祈り読みし返して、「アーメン。主イエスよ、来たりませ！」（啓 22:20）と彼に言うことです。これは聖書における最後の祈りです。全聖書は、祈りとして表現された、主の来臨に対する願いをもって結んでいます。

Ｂ．そのような祈りは、花婿としてのキリストと、花嫁としての愛する者との、新婚の愛の中にある結合と交わりを描写しています。それは、キリストを愛する者であるヨハネの祈り（聖書の結論の言葉として）のようであり、彼の神聖な愛におけるキリストと召会に関する神の永遠のエコノミーを啓示しています。

Ｃ．愛の詩としての雅歌にしたがって、わたしたちが愛の生活を生きることは、わたしたちを神の「ポイエマ（poiema）」、神の詩とし、わたしたちの神に対する究極的な享受としての恵みという結果になります（エペソ 2:10）。主イエスの恵みだけが、わたしたちにすべてを含むキリストを経験させ、享受させ、表現させ、三一の神にあずからせることができます。それは、わたしたちが彼の究極的なシュラムの女、小羊の妻として、彼の永遠の団体的な表現となり、彼の永遠の定められた御旨を成就して、彼とわたしたちが永遠にわたって相互に絶対的な満足と完全な安息を享受するためです（啓 22:21．19:7．21:9）。

Ｄ．「主が来られる時、信仰は事実となり、祈りは置き換えられて賛美となります。愛は影のない完全なものとなり、わたしたちは罪のない領域で主に仕えます。それは何という日でしょう！　主イエスよ、すぐに来てください！」――ウオッチマン・ニー。（ウオッチマン・ニー全集、第 23 巻、「歌の中の歌」、第 6 区分）

©2026 Living Stream Ministry